

函館市の観光

令和6年度

函館市観光部

目 次

1	函館市の概要	1
2	観光部略年表	2
3	部の機構と分掌事務	7
4	令和6年度予算	8
5	令和6年度観光関係予算	9
6	観光振興施策の基本方針～「函館市観光基本計画」	10
7	令和6年度主要観光施策	12
8	函館市の観光統計	22
9	観光施設の概要と利用状況	23
10	国際観光都市宣言	28

1 函館市の概要

函館市は、室町時代の享徳3年（1454年）、津軽の豪族 河野政通が宇須岸（ウスケシ：アイヌ語で湾の端の意）と呼ばれていた漁村に館を築き、この館が箱に似ているところから「箱館」と呼ばれることになり、その後、明治2年（1869年）、蝦夷が北海道となり、箱館も函館と改められた。



本市は、北海道南端の渡島半島南東部に位置し、温暖な気候、恵まれた自然、集積した都市機能、さらには歴史と伝統に培われた文化、豊富な人文資源など数多くの優れた特性を背景に、北海道と本州を結ぶ交通の結節点として、また、南北海道における行政・経済・文化の中核都市として成長してきた。

このような中、昭和63年の青函トンネル開通記念博覧会や平成元年の「国際観光都市宣言」を契機に、恵まれた美しい自然と歴史的文化遺産を生かした観光資源・施設の整備や、航空路線網の拡大など交通アクセスの充実を図り、歴史とロマン溢れる街として多くの方々に親しまれる国際観光都市としてのまちづくりを進めてきた。

また、平成16年12月に戸井町、恵山町、榎法華村、南茅部町と合併し、豊かな海を擁する新たな函館市となり、平成28年3月には、北海道新幹線が開業した。

市制施行	大正11年(1922年)8月1日
面積	677.87 km ² (R6.4.1現在)
人口	238,213人 (住民基本台帳人口 R6.3月末現在)
地勢	渡島半島の南東部に位置し、東・南・北の三方を太平洋・津軽海峡に囲まれ、西は北斗市・七飯町・鹿部町と接している。

2 観光部略年表

観光は、宿泊、運輸、飲食・小売その他のサービス業、さらには製造業や農林水産業など、幅広い産業に波及する裾野の広い総合産業であることから、令和6年度から令和10年度までを計画期間とする観光基本計画を策定し、官民が一体となって観光振興に取り組んでいる。

- 1922（大正11年） ・ 8月1日市制施行
- 1935（昭和10年） ・ 7月1日を開港記念日と定め、第1回港まつりを挙（開港77年）
・ 函館観光協会設立
- 1946（昭和21年） ・ 函館山を一般に開放
- 1952（昭和27年） ・ 北洋漁業再開（関連産業の復興始まる）
・ 五稜郭跡の特別史跡指定
- 1954（昭和29年） ・ 北洋漁業再開記念北海道大博覧会開催
- 1957（昭和32年） ・ 函館物産協会設立
- 1958（昭和33年） ・ 高田屋嘉兵衛銅像（建立）除幕
・ 函館山ロープウェイ営業開始（30人乗り）
・ 函館開港100年記念式典挙
- 1960（昭和35年） ・ 函館空港ターミナルビル完成（翌年、定期航空路営業開始 函館～札幌）
- 1964（昭和39年） ・ 五稜郭タワー完成（旧タワー：高さ60m）
・ 函館～大間間にカーフェリー就航
- 1966（昭和41年） ・ 函館港まつり、8月開催となる
- 1970（昭和45年） ・ 第1回箱館五稜郭祭開催
- 1971（昭和46年） ・ 函館空港拡張工事（2,000m滑走路およびターミナルビル等）完成、
中距離ジェット機就航
- 1973（昭和48年） ・ はこだてグリーンプラザA、Bブロック開園（翌年、Cブロック開園）
・ 第一次オイルショック、漁業専管区域200海里により、造船業、水産加工業などが大きな影響を受ける
- 1974（昭和49年） ・ 旧函館区公会堂、重要文化財に指定
- 1978（昭和53年） ・ 函館空港2,500m滑走路完成（翌年、エアバス就航）
- 1980（昭和55年） ・ 函館～名古屋線航空路開設
- 1982（昭和57年） ・ 元町公園開園
・ 旧北海道庁函館支庁庁舎の保存修理、元町観光案内所を開設
・ 函館市観光基本計画策定
・ カナダ ハリファックス市と国際姉妹都市提携
- 1983（昭和58年） ・ 重要文化財・旧函館区公会堂、一般公開
・ 函館ハリストス正教会復活聖堂、重要文化財に指定
- 1986（昭和61年） ・ 第1回はこだて冬フェスティバルを開催
- 1987（昭和62年） ・ 函館・大沼地区の国際観光モデル地区指定

- 1988（昭和63年）
 - ・青函トンネル・津軽海峡線開業
 - ・青函連絡船，80年の歴史に幕を閉じる
 - ・函館山展望台の増改築，125人乗り大型ロープウェイ運行開始
 - ・青函トンネル開通記念博覧会開催（7月9日～9月18日）
- 1989（平成元年）
 - ・青森市とツインシティ（双子都市）提携
 - ・国際観光都市宣言
 - ・函館～東京線航空路ダブルトラック（JAL就航）
- 1990（平成2年）
 - ・函館～大阪線航空路，18年ぶりに再開
 - ・函館シーポートプラザ開業
 - ・夜の観光資源を創造するファンタジー・フラッシュ・タウン計画（ライトアップ）始まる
 - ・函館港まつり一万人踊りパレード五稜郭コース始まる
- 1992（平成4年）
 - ・観光客入込み数が初めて500万人を超える（平成3年度）
 - ・旧イギリス領事館（開港記念館）開館
 - ・ロシア ウラジオストク市，オーストラリア レイクマコーリー市と国際姉妹都市提携
- 1994（平成6年）
 - ・新函館市観光基本計画策定
 - ・函館～ユジノサハリンスク国際定期航空路開設
- 1995（平成7年）
 - ・函館市写真歴史館開館
 - ・（社）函館観光協会が（社）函館国際観光協会に名称変更
 - ・観光大使設置
 - ・函館コンベンションビューロー設立
- 1996（平成8年）
 - ・函館～大阪線航空路ダブルトラック化（JAL就航）
 - ・函館～仙台線航空路開設
- 1997（平成9年）
 - ・ロシア ユジノサハリンスク市と国際姉妹都市提携
- 1998（平成10年）
 - ・函館～新千歳線，函館～旭川線および函館～釧路線航空路開設
 - ・第1回はこだてクリスマスファンタジー開催
- 1999（平成11年）
 - ・（社）函館国際観光協会と函館コンベンションビューローが合併し，（社）函館国際観光コンベンション協会に名称変更
 - ・函館空港滑走路が3,000mに拡張
 - ・函館～女満別線航空路開設
- 2001（平成13年）
 - ・元町観光駐車場オープン
 - ・旧岩船氏庭園「香雪園」（見晴公園）が国の名勝に指定
 - ・中国 天津市と友好交流都市提携
- 2002（平成14年）
 - ・ペリー来航150周年記念事業開催
 - ・第1回函館塩ラーメンサミット開催
- 2003（平成15年）
 - ・五稜郭観光駐車場オープン
 - ・JR函館新駅開業
 - ・はこだてフィルムコミッション設立
 - ・函館～丘珠線ダブルトラック化（HAC就航）
- 2004（平成16年）
 - ・函館市観光基本計画（2004-2013）策定
 - ・戸井町，恵山町，榎法華村，南茅部町を編入合併

- 2005 (平成17年)
 - ・函館駅前広場完成
 - ・函館～羽田線トリプルトラック化 (ADO就航)
 - ・函館空港ターミナルビル増改築オープン
 - ・北海道新幹線新青森～新函館間建設着工
 - ・はこだて・シー・コンベンション2005開催
 - ・函館ひかりの屋台・大門横丁オープン
- 2006(平成18年)
 - ・新五稜郭タワー完成 (高さ107m)
 - ・函館～ソウル国際定期航空路開設 (週3便: 日, 火, 木曜日)
 - ・函館市夜景グレードアップ構想・基本計画策定
- 2007(平成19年)
 - ・函館～青森間新型高速フェリー就航(ナツチャンRera) (~2008.10)
 - ・「中空土偶」が北海道内唯一の国宝に指定
- 2008(平成20年)
 - ・観光コンベンション部発足
 - ・観光情報サイト「はこぶら」の開設
- 2009(平成21年)
 - ・旧イギリス領事館 (開港記念館) の展示物リニューアル
 - ・開港150周年記念事業開催
 - ・第1回はこだてMOMI-Gフェスタ開催
- 2010(平成22年)
 - ・「はこだて観光圏」の認定
 - ・JRA函館競馬場リニューアルオープン
 - ・箱館奉行所復元オープン
 - ・東北新幹線新青森開業
- 2011(平成23年)
 - ・東日本大震災
 - ・「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」において
市内21地点が星を獲得 (「函館山からの眺望」は三つ星)
 - ・韓国 高陽 (コヤン) 市と国際姉妹都市提携
 - ・函館市縄文文化交流センターオープン
 - ・全国産業観光フォーラムinはこだて開催
- 2012(平成24年)
 - ・「ミシュランガイド北海道2012特別版」刊行
 - ・北前船寄港地フォーラムinはこだて開催
 - ・函館港まつりにディズニーパレード招へい(市制施行90周年記念事業)
 - ・北海道新幹線新函館～札幌間建設着工
 - ・函館～台北国際定期航空路開設 (復興航空)
 - ・第1回はこだてグルメサーカス開催 (市制施行90周年記念事業)
 - ・函館～台北国際定期航空路開設 (エバー航空)
- 2013(平成25年)
 - ・青函圏観光都市会議設立 (青森, 弘前, 八戸, 函館の4市で構成)
 - ・函館国際観光コンベンション協会が「一般社団法人」に移行
 - ・函館～大阪 (伊丹) 線定期航空路, 8年ぶりに再開 (JAL)
 - ・JRA函館競馬24日開催 (札幌競馬場のスタンド改築等のため)
 - ・GLAY野外ライブ「GLORIOUS MILLION DOLLAR NIGHT Vol.1」開催
 - ・函館港まつりで「青森ねぶたの海上運行」実施
 - ・函館～三沢線航空路開設 (HAC)
 - ・函館ロゴマークの作成

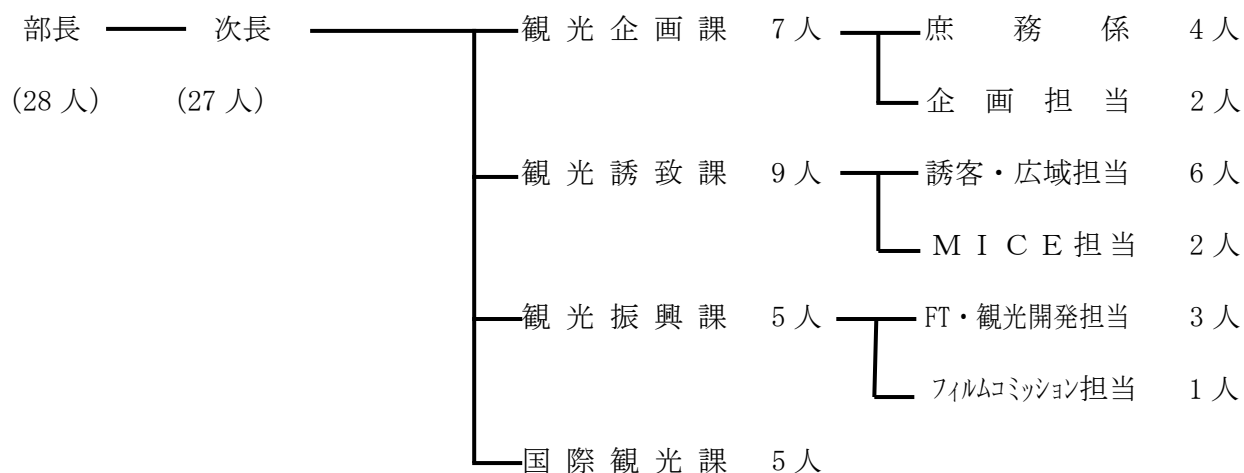
- 2014(平成26年)
 - ・観光部発足（観光コンベンション部から名称変更）
 - ・函館市観光基本計画（2014-2023）策定
 - ・五稜郭築造150年祭開催
 - ・北海道新幹線開業 青函圏・みなみ北海道連絡会議設立
（函館，道南，胆振・後志地方，青森県内の自治体で構成）
- 2015(平成27年)
 - ・函館～天津国際定期航空路開設（天津航空）
 - ・観光部内の組織見直し（4課体制：観光企画課，コンベンション推進課，観光推進課，国際観光課）
 - ・函館市観光案内所の改修
 - ・函館～北京国際定期航空路開設（中国国際航空）
 - ・「GLAYと宝探し」開催
 - ・函館アリーナこけら落とし公演
「GLAY Special Live at HAKODATE ARENA
GLORIOUS MILLION DOLLAR NIGHT Vol.2」開催
 - ・函館アリーナオープン
 - ・函館～杭州国際定期航空路開設（中国東方航空）
- 2016（平成28年）
 - ・ふるさと祭り東京2016に大型ブース出展
 - ・北海道新幹線新函館北斗駅開業
 - ・新幹線開業おもてなし事業実施
（おもてなし隊（観光案内，幕末衣装隊）設置，歓迎フラッグ掲出など）
 - ・函館市写真歴史館閉館
 - ・青函圏周遊博開催
 - ・青森県・函館デスティネーションキャンペーン実施
 - ・東京ディズニーシー15周年スペシャルパレード開催（函館港まつり）
 - ・函館～台北国際定期航空路開設（タイガーエア台湾）
 - ・第5回はこだてグルメサーカスに東北6県お祭りパレードを招へい，お祭り広場設置（北海道新幹線開業記念事業）
- 2017（平成29年）
 - ・外国人観光コンタクトセンター開設
 - ・中国向け観光PR動画配信開始
 - ・みなみ北海道・北東北食旅フェスタin仙台へのブース出展
- 2018（平成30年）
 - ・フェスティバルタウンウェブページ開設
 - ・GLAY野外ライブ「GLORIOUS MILLION DOLLAR NIGHT Vol.3」
 - ・中国デジタルプロモーション（動画配信，生放送アプリによるKOL招請ライブ配信，ブロガー招請）の実施
 - ・北海道ドラマティックロード推進協議会の設置
 - ・「恋人たちのまち函館」プロモーションの実施
 - ・胆振東部地震の影響により第7回はこだてグルメサーカスを中止
 - ・第1回はこだてひかりのガーデン開催
- 2019（令和元年）
 - ・函館山山麓観光駐車場の整備（令和2年4月有料化）
 - ・第1回湯の川冬の灯り開催

- 2020（令和2年）
- ・新型コロナウイルス感染症の世界的流行
 - ・函館市グルメクーポンの発行
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響により函館港まつり、はこだてグルメサーカスを中止
 - ・外国人観光客向けAIチャットボットの導入
 - ・縄文文化通訳ガイド人材バンクの創設
 - ・冬季誘客促進事業（宿泊料金助成，グルメクーポン，はこだて週末冬花火，はこだて光の万華鏡（元町公園会場は新型コロナウイルス感染症の影響により中止））の実施
- 2021（令和3年）
- ・新型コロナワクチン接種の開始
 - ・函館市観光誘客促進事業「はこだて割」第1弾の実施
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響により函館港まつり，はこだてグルメサーカスを中止
 - ・二次元アイドルグループ『HAKOMEN（ハコメン）』を活用した非接触型函館観光プロモーションの実施
 - ・北海道・北東北の縄文遺跡群が世界文化遺産に登録
- 2022（令和4年）
- ・3年ぶりに函館港まつりを縮小開催
 - ・3年ぶりにはこだてグルメサーカスを開催
 - ・「Wechat」を活用した中国デジタルプロモーションの実施
 - ・函館市観光誘客促進事業「はこだて割」第2弾・第3弾の実施
- 2023（令和5年）
- ・函館市観光基本計画（2024－2028）策定
 - ・函館港まつりを通常規模で開催
 - ・観光情報サイト「はこぶら」のリニューアル
 - ・観光パンフレット「Oh!Hakodate!」の作成
 - ・函館市観光PR動画の作成
 - ・観光大使新規募集停止
 - ・HAKODATE FREE Wi-Fiの再整備を実施
 - ・函館～台北国際定期便開設（タイガーエア台湾，スターラックス）
 - ・函館～香港国際季節便開設（香港航空）
- 2024（令和6年）
- ・「函館×名探偵コナン」特別イベント開催
 - ・アメリカ市場プロモーションの実施
 - ・SNSを活用した新制度「#ハコラブ」の実施
 - ・函館山山頂の混雑緩和を図る実証実験の実施

3 部の機構と分掌事務

観光企画課・観光誘致課・観光振興課・国際観光課の4課体制により、国内外からの誘客、MICE誘致、国際観光都市としてのブランディングに取り組んでいる。

【観光部組織機構】（人員 28 人 R6.4 現在）



【分掌事務】

観光企画課	1 観光に関する調査および統計に関すること。 2 観光計画の策定および推進に関すること。 3 国内観光客の受入れに関すること。 (庶務係) 1 部内の庶務および経理に関すること。 2 観光施設の整備および維持管理に関すること。 3 国内の観光関係団体との連絡に関すること。 4 市が設置する観光客用駐車場に関すること。 5 観光案内に関すること。 6 旧イギリス領事館（開港記念館）に関すること。
観光誘致課	1 国内観光客の誘致に関すること。 2 広域観光に関すること。 3 コンベンション等の誘致に関すること。 4 観光情報の発信に関すること。
観光振興課	1 観光資源の開発等に関すること。 2 観光関係諸行事に関すること。 3 映画等の撮影に係る誘致および支援に関すること。
国際観光課	1 外国人観光客の誘致に関すること。 2 外国人観光客の受入れに関すること。 3 外国の観光関係団体等との連絡に関すること。

4 令和6年度予算

函館市の一般会計予算は当初予算で1,432億7,000万円、対前年度当初予算比約3.7%の減となっている。

また、観光関連の予算は、観光費6億8,552万4千円、商工総務費228万円が計上されており、一般会計に対する構成比は約0.5%となっている。

【令和6年度函館市一般会計歳出】

科 目	本年度当初予算額		前年度6月補正後予算額		比 較	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	増減額(千円)	増減率(%)
1 議会費	334,463	0.2	353,518	0.2	△9,055	△2.6
2 総務費	8,260,223	5.8	5,897,283	4.0	2,362,940	40.1
3 民生費	56,406,467	39.4	57,452,082	38.6	△1,042,615	△1.8
4 衛生費	11,795,604	8.2	14,532,521	9.8	△2,736,917	△18.8
5 労働費	141,066	0.1	148,569	0.1	△7,503	△5.1
6 農林水産費	1,432,440	1.0	1,433,904	1.0	△1,464	△0.1
7 商工費	12,264,823	8.5	12,764,074	8.6	△499,251	△3.9
商工総務費	2,280	0.0	2,327	0.0	△47	△2.1
観光費	685,524	0.5	720,394	0.5	△34,870	△5.1
8 土木費	10,311,339	7.2	10,468,355	7.0	△157,016	△1.5
9 消防費	719,322	0.5	1,620,322	1.1	△901,000	△55.6
10 教育費	7,271,971	5.1	8,171,641	5.5	△899,670	△11.0
11 公債費	11,065,336	7.7	11,371,252	7.6	△314,916	△2.8
12 諸支出金	5,961,104	4.2	7,748,366	5.2	△1,787,262	△23.1
13 職員費	17,201,842	12.0	15,598,656	10.5	1,603,186	10.3
14 予備費	100,000	0.1	1,278,175	0.8	△1,178,175	△92.2
合 計	143,270,000	100.0	148,838,718	100.0	△5,568,718	△3.7

※ ゴシック体表記は観光部関係予算。ただし、観光費には土木部関係経費および4支所関係経費を含む。

5 令和6年度観光関係予算

令和6年度の観光関係予算は、函館を舞台とした劇場版「名探偵コナン」とタイアップした各種企画を市内で展開することにより、賑わいを創出し観光消費の拡大を図るほか、課題となっている函館山山頂展望台の混雑緩和を図る実証実験を行うための経費を計上。

【令和6年度観光関係予算（当初）】 687,804千円

○商工総務費	2,280	観光関係団体負担金	1,190
事務所要経費	2,280	(1) 北海道観光振興機構負担金	670
		(2) 函館圏優良土産品推奨実行委員会負担金	20
○観光費	685,524	(3) 国際観光振興機構負担金	300
観光地域づくり法人関係経費	600	(4) 箱館高田屋嘉兵衛顕彰会負担金	200
(1) 観光地域づくり法人関係経費	600	函館国際観光コンベンション協会補助金	34,400
国内観光プロモーション実施経費	14,931	(1) 函館国際観光コンベンション協会補助金	34,400
(1) 観光キャンペーン実施経費	4,931	函館山夜景魅力度向上事業費	5,200
(2) 「函館×名探偵コナン」特別イベント開催負担金	10,000	(1) 函館山夜景魅力度向上事業費	5,200
海外観光プロモーション実施経費	46,046	観光施設維持管理費	27,354
(1) 観光プロモーション実施経費	28,535	(1) 観光施設維持管理費	27,354
(2) ラグジュアリーーツリズム推進経費	3,528	湯の川地区活性化推進費	14,308
(2) 中国デジタルプロモーション実施経費	9,283	(1) 湯の川冬の灯り開催負担金	14,308
(3) 海外観光客誘致促進協議会負担金	4,700	観光拠点地区駐車場関係経費	36,857
観光客受入環境整備経費	15,012	(1) 西部地区観光駐車場管理委託料	18,863
(1) 滞在型観光促進経費	2,675	(2) 五稜郭観光駐車場管理委託料	4,600
(2) 観光産業人材育成経費	179	(3) 元町観光駐車場（広場式）自動管理システム使用料	2,324
(3) 外国人観光客向けAIチャットボット運営経費	660	(4) 函館山麓観光駐車場自動管理システム使用料	1,980
(4) HAKODATE FREE Wi-Fi運営管理費	2,376	(5) 五稜郭観光駐車場自動管理システム使用料	2,112
(5) 観光動向調査経費	5,053	(6) 観光駐車場維持管理経費	6,978
(6) 広域周遊観光・イベントチャートペール促進経費	4,069	観光案内所管理運営費	30,276
広域観光連携関係経費	9,325	(1) 観光案内業務委託料	28,376
(1) 新函館北斗駅広域観光推進協議会	276	(2) その他諸経費	1,900
(2) 道内中核都市観光連携協議会事業負担金	1,807	その他所要経費	10,046
(3) ひろはこ連携推進実行委員会負担金	5,106		
(4) 北前船日本遺産推進協議会負担金	702	土木部関係経費	224,000
(5) その他諸経費	1,434	(1) 道路整備事業費	224,000
観光客誘致宣伝経費	33,495	4支所関係経費	63,374
(1) 観光宣伝印刷物等作成経費	10,653	(1) 恵山つつじまつり開催負担金	2,500
(2) 観光ポータルサイト「はこぶら」関係経費	22,374	(2) 恵山ごっこまつり開催負担金	300
(3) 観光大使等関係経費	468	(3) ひろめ舟祭り開催負担金	4,000
はこだてフィルムコミッション関係経費	2,724	(4) なとわ・えさん交流センター改修事業費	37,600
(1) コーポレーション誘致・支援推進費	724	(5) 恵山地区イベント開催負担金	600
(2) 函館港イベント映画祭開催補助金	2,000	(6) 観光施設民営化関係経費（ホテル恵風）	50
コンベンション誘致関係経費	5,257	(7) 観光施設維持管理費	18,324
(1) コンベンション誘致推進費	2,657		
(2) 各種大会補助金	2,600		
観光行事関係経費	111,129		
(1) 箱館五稜郭祭開催負担金	2,900		
(2) 函館港まつり開催負担金	26,000		
(3) はこだてグルメサカス開催負担金	20,500		
(4) はこだてクリスマスファンタジー開催負担金	28,100		
(5) はこだて冬フェスティバル開催負担金	20,000		
(6) 大沼・函館雪と氷の祭典開催負担金	240		
(7) 湯の川温泉花火大会開催補助金	2,500		
(8) 五稜星の夢開催補助金	1,200		
(9) はこだてMOMI-Gフェスタ開催経費	6,631		
(10) その他諸経費	3,058		

6 観光振興施策の基本方針～「函館市観光基本計画」

「函館市観光基本計画」に基づき、各種施策を展開する。また、広く関係機関、学識経験者等の意見を反映させるため、函館市観光アドバイザー会議を設置する。

【函館市観光基本計画（2024-2028）】：令和6年（2024年）3月策定

1 計画期間

令和6年度から令和10年度（2028年度）までの5年間

2 5年後の函館観光が目指すあるべき姿

観光誘客による観光消費額の増加により、観光業の売上を増加させ、観光業を活性化させる。これにより、観光産業の振興が図られ、関連のある事業者へも直接的な効果があり、また、観光消費による経済波及効果や地域経済循環により、他産業にも売上の増加をもたらすほか、市民生活にも経済的な効果が波及している。

3 基本理念

観光の価値を高め、函館を照らす ～もう一回、もう一泊、もう〇〇～

4 基本方針

5年後の函館観光が目指すあるべき姿を実現させるために4つの基本方針を設定し、施策を展開します。

(1) 質の高い観光により観光消費額を向上させる

○ 函館観光の質を高め、函館観光の満足度を高める取組みを進めます。

(2) 観光の繁閑差を是正する

○ 現状は観光入込客数の少ない秋・冬季の誘客を通じて、1年を通じた観光需要の安定を図ります。

(3) 函館観光を盛り上げる人を増やす

○ ボランティアやおもてなし、情報発信など、函館市民が函館観光に関わり、一緒に盛り上げていただけるような地域づくりを進めます。

(4) 観光を通じて函館が潤う地域づくりを進め、観光への市民理解を促進する

○ 観光客による消費が、市内の幅広い産業にもたらす好影響を周知し、また、その好影響の効果をより高め、観光への市民理解を促進します。

5 目標値の設定

基本方針で掲げた取組みの達成指標の目標値を下記のとおり設定します。

(1) 平均宿泊数の増加 基準値 1.23泊 ⇒ 目標値 1.48泊

(2) 平準化指数の改善 基準値 0.58 ⇒ 目標値 0.68

(3-1) 函館観光に関わる取組みに「参加する」市民の増加

(3-2) 家族や友人、知人に函館観光を「ぜひ勧めたい」と考える観光客の増加

(4) 市民の観光への理解度の向上

《函館市観光アドバイザー会議設置要綱》

(設置)

第1条 函館市観光基本計画（以下「計画」という。）の推進にあたり，広く関係機関，学識経験者等の意見を反映させるため，函館市観光アドバイザー会議（以下「会議」という。）を設置する。

(組織)

第2条 会議は，広く観光に関連する分野に属する各種団体から推薦された者および市が指定する者，計11人以内をもって組織する。

(任期)

第3条 委員の任期は2年とし，再任を妨げない。ただし，委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

(会議)

第4条 会議に座長を置く。

2 会議は，座長が招集する。

3 座長は，会議の進行と調整を行う。

4 市長は，必要に応じて会議に専門部会を置くことができる。

(意見の聴取)

第5条 市長は，施策展開等の検討に関し，必要があると認めるときは，委員以外の関係者の出席を求め，その意見を聞くことができる。

(庶務)

第6条 会議の庶務は，観光部観光企画課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか，会議の運営について必要な事項は，その都度座長が会議に諮って定める。

附 則

この要綱は，平成17年9月14日から施行する。

附 則

この要綱は，平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は，平成21年11月22日から施行する。

附 則

この要綱は，平成24年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は，平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は，平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は，令和2年2月25日から施行する。

7 令和6年度主要観光施策

来函観光客の満足度を向上させるため、提供するサービスやコンテンツの質を高め、函館観光全体の消費額の向上を図るとともに、観光消費の経済波及効果で市民生活を豊かにします。

【主要施策】

1 質の高い観光により観光消費額を向上させる

- 近隣の自治体との連携を深め、道南地域全体の観光資源を効果的に発信するとともに、函館を拠点とした魅力ある観光プログラムの造成を図ることで、函館市内の宿泊日数の増加に繋がります。
- 富裕層をはじめとする旅行者のニーズに対応するために、函館の自然環境や文化、歴史などを活用した付加価値が高い観光コンテンツづくりを推進し、プロモーションを行っていきます。
- 欧米からの訪日外国人観光客の誘致を強化するほか、東京から北関東、東北を経て、本市へ至る周遊ルートを確立することで、消費単価の高い訪日外国人観光客の誘客を目指し、市内の観光消費額の向上に繋がります。
- 函館市内における観光消費機会の拡大に向けて、観光客の旅マエ、旅ナカ、旅アトの段階ごとに、ターゲットの特性に応じたツールを活用して効果的な情報発信に努めます。
- 市内の観光スポットにおけるWi-Fi環境の提供を引き続き行うほか、「縄文文化通訳ガイド人材バンク事業」におけるガイド人材の育成など、受入環境の整備を図り、訪日外国人観光客等の満足度向上を図ります。
- 北海道新幹線の延伸を見据え、道内の自治体との地域連携を図ります。
- 歴史や映画、アニメの聖地巡礼などといった一定のファン層に支えられている付加価値の高いコンテンツの推進を図ります。
- MICE誘致に向けて、観光地として高い評価を得ている観光資源を十分に活用しPRするとともに、エクスカージョンの充実にも力を入れるなど、質の高い受入環境の整備を進め、さらなる誘致に繋がっていきます。
- ユニバーサルデザイン観光（UD観光）に関する情報を収集し、市内の事業者へ情報発信することでUD観光を推進するとともに、観光客への情報提供のあり方について検討します。

2 観光の閑散差を是正する

- 中国、台湾、東南アジア諸国など、雪への憧れや興味が強い国や地域への冬のコンテンツ提案や、秋冬の見どころやイベントの情報発信を行い、閑散期の函館観光の起爆剤となるよう誘致を推進します。
- 季節のみに頼ったイベントやコンテンツだけではなく、函館独自の観光資源や他のコンテンツなどと組み合わせるなど、誘客効果の高い秋・冬のイベント、コンテンツを検討します。
- 函館観光の閑散期でもある10月～翌3月の教育旅行需要の掘り起こしを進めると同時に、歴史や文化など、教育旅行に適したコンテンツの拡充を進めます。

3 函館観光を盛り上げる人を増やす

- 函館観光に携わる観光ガイドやボランティアなどの活動について情報発信を行います。
- 誰もが函館の魅力を発信することが出来る，SNSを活用した新たな取り組みを実施するとともに，市民が函館観光に触れる機会を増やすための事業を検討します。
- 市内の高校生や大学生が，函館の観光関連産業で働く姿を具体的にイメージする機会を持てるよう検討を進めるほか，働き方改革やデジタル・トランスフォーメーション（DX）に係る情報について，観光関連事業者へ発信します。

4 観光を通じて函館が潤う地域づくりを進め，観光への市民理解を促進する

- 出前講座などの機会や様々な媒体を通じて，函館における観光の重要性について周知を図ります。
- 各種観光プロモーションやイベント等の機会を活用し，函館で生産された農産品や水産品，土産品などの食のPRを推進していきます。

5 その他，観光振興を図るうえで必要な取り組み

- 地域の観光推進体制の強化を図る一つ的手段として，観光地域づくり法人（DMO）の設立を検討します。
- 計画の進捗管理，今後の施策の企画・立案の資する基礎的データの取得を目的とした各種調査を実施します。
- 青森市や弘前市等と連携し，青函圏の魅力を広く発信するとともに，誘客の強化に努めます。また，東日本の新幹線沿線地域や東北地域等と連携し，国内外からの誘客を図るための広域観光ルートの創出や交流人口の拡大に努めます。
- 賑わいや活気に満ちた満足度の高いイベントを計画・実施するため，既存イベントの見直しや他のコンテンツとの連携を進めるとともに，事業者や市民・観光客への情報発信に努めます。
- 地域の観光振興の中核を担う函館国際観光コンベンション協会との連携強化のほか，市内外の関係機関等との情報交換・交流を図り，情報ネットワークの拡充・強化に努めます。

【主な個別施策】

1 質の高い観光により観光消費額を向上させる

○滞在型観光の促進

函館観光の魅力の一つである「まち歩き観光」に対応した着地型の観光案内ツールとして、平成 21 年度から「函館まちあるきマップ」を作成し、多様なまち歩きコースの紹介するとともに、観光客の宿泊日数や滞在時間の長期化を図っている。

○新函館北斗駅広域観光推進協議会（H25.5設立）

北海道新幹線新駅沿線地域が保有する観光資源等を活用して観光客の誘致を図るため、北海道新幹線沿線の5市町および交通事業者等による協議会を設立し、北海道新幹線新駅沿線地域の宣伝誘客および地域の広域観光の振興に取り組んでいる。

<構成等>

函館市、北斗市、七飯町、鹿部町、森町、J R北海道等交通事業者、
各自治体観光協会

<主な取組>

- ・はこだて旅するパスポート、利用促進パンフレットの発行
- ・イベントプロモーション事業の実施
- ・駅ナカお出迎え事業の実施

○ラグジュアリーツーリズムの推進

昨年度実施した、中国人富裕層向け観光コンテンツ造成・販売事業実施業務において造成した、富裕層を対象としたコンテンツ（PR動画、モデルツアー）を活用し、当市の観光地としての魅力を訴求すべく、中国現地で旅行会社を対象としたセールスコールおよび個人旅行者を対象としたセミナーを開催する。

○アドベンチャートラベルの促進

ATWS（アドベンチャートラベル・ワールドサミット）北海道の開催を機に、北海道へのアドベンチャートラベルの需要が高まっている中、道南エリアでの普及促進の取り組みとして、事業者交流を目的としたワールドカフェの開催や人材育成事業として体験会の実施および救命講習などを行う。今後もさらなる観光消費額増大を目指し、アドベンチャートラベラーの受入環境整備に取り組む。

○欧米市場のプロモーション強化

昨年度実施したアメリカ市場の動向調査結果を踏まえ、旅行博の出展や現地旅行会社・メディアへの営業活動等を委託事業として行い、本市の情報発信を行うとともに認知度向上を図る。

○イーストジャパン・キャンペーン

羽田・成田の両国際空港を利用する外国人観光客を主なターゲットとし、京都・大阪などのいわゆるゴールデンルートではなく、東北・函館への誘客を目的とする。函館市、J R 東日本、J R 北海道、(一社)東北観光推進機構および東北・北海道新幹線沿線自治体(青森市・八戸市・盛岡市・仙台市)の連携により、当該観光地の魅力を海外観光客に発信するとともに、新幹線の利用を想定した周遊ルートの造成や商品販売により誘客促進を図る。

○函館市公式観光情報サイト「はこぶら」の運営

開設年月日：平成 20 年 12 月 1 日(令和 5 年 3 月 15 日リニューアル)

掲載内容：飲食・観光スポット・土産品等の情報、イベント情報、
フォトライブラリー、交通・宿泊情報、観光コラム、
新型コロナウイルス感染症関連情報等

対応言語数：8 言語(日本語、英語、中国語(簡体字、繁体字)、韓国語、タイ語、
インドネシア語、マレーシア語)

【ページビュー数】

令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
9,307,811 件	6,913,559 件	7,026,110 件	10,142,848 件	8,976,635 件

○HAKODATE FREE Wi-Fi

平成 27 年度に函館市内の主要な観光エリアである元町エリアおよびベイエリアにおいて、35 施設に 48 アクセスポイントを設置し、平成 28 年 4 月 1 日から HAKODATE FREE Wi-Fi としてサービスの提供を開始。令和 5 年度には、エリアの見直しや機器の更新など、通信環境の再整備を行うことにより不稼働発生件数を抑えるとともに、最新機器に更新し通信速度を改善した。引き続き、Wi-Fi の運営管理を行うことで、外国人観光客の利便性、満足度の向上を図る。

○縄文文化人材バンク運営事業等

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録後、縄文文化交流センターを訪れる外国人観光客の増加により、通訳ガイドの不足が懸念されることから、縄文の魅力を正確に伝えることのできる質の高い通訳ガイドの確保および育成を図る。現状、旅行会社が外国人観光客へのガイドを依頼する際には、通訳案内士等の資格保有が条件となっているが、函館市内の資格所有者は少数であり、クルーズ船対応では札幌や青森のガイドに対応を要請している状況である。そのため、当市の有資格者を増やし、ガイド需要に応えることができるよう、縄文文化通訳人材バンク登録者を含む市内在住者を対象に、通訳案内士養成講座を開催する。

○外国人観光客向けA Iチャットボットの運営

外国人観光客からの問い合わせに、A Iチャットボットを活用することで、24時間対応が可能となり、受入環境の向上を図る。令和2年10月開設。

【利用実績】

	英語	繁体字	簡体字	韓国語	その他	計
令和3年度	72	14	1	2	3	92
令和4年度	141	81	6	25	0	253
令和5年度	567	335	28	42	1	973

○函館山夜景魅力度向上事業

主に夜景時間帯に発生している函館山山頂展望台の混雑状況を緩和するため、函館山山頂展望台からの夜景観賞だけでなく、函館山山頂を一体的な会場として函館山山頂広場および漁火公園を活用し、新たな夜景観賞スポットとするための実証実験を実施する。

○道内中核都市観光連携協議会（H23.4設立）

北海道6圏域の中核都市が相互に観光情報を発信するとともに、観光プロモーション事業等を共同で実施するなど、観光事業の一部を連携して実施する。

<構成等>

札幌市、旭川市、函館市、釧路市、北見市、帯広市

<主な取組>

6都市集客・周遊プロモーション事業

○「函館×名探偵コナン」特別イベント

函館を舞台とする『劇場版名探偵コナン 100万ドルの五稜星（みちしるべ）』の公開時期に合わせ、同作品とタイアップした各種企画を函館市内で展開することにより、地域の賑わいを創出するとともに、作品のファン層を中心とした誘客および観光消費の拡大を図る。

実施主体：「函館×名探偵コナン」特別イベント実行委員会

（函館国際観光コンベンション協会、函館商工会議所、北海道旅客鉄道株式会社、函館市）

実施期間：令和6年4月12日～9月30日

実施内容：スタンプラリー、まち巡りマップ、フォトスポット、市電コラボ、
歓迎フラッグ、バナー掲出等

○はこだてフィルムコミッション事業

平成15年12月に「はこだてフィルムコミッション」を設立し、テレビ、映画、雑誌等の撮影を支援している。

【撮影支援件数】

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
テレビ、映画等	69件	98件	99件	124件

○MICEの誘致

平成27年8月の「函館アリーナ」のオープンと平成28年3月の北海道新幹線開業を契機とした宿泊施設の増加などにより、当市の受入環境は大きく改善し、従前以上に多種多様な規模・内容のMICEの開催要望が増加していることを踏まえ、引き続き、（一社）函館国際観光コンベンション協会等と連携し、本市での開催にかかる支援メニューの充実を図るとともに、学会事務局や大学関係、PCO等への一層積極的な誘致活動を展開していく。

2 観光の繁閑差を是正する

○海外観光プロモーション

コロナ禍を経て、個人の外国人旅行者の入国が解禁され、今後インバウンドの大幅な増加が見込まれることから、台湾、中国、フィリピン、タイなど海外現地で旅行博等へ参加し、外国人観光客の積極的な誘致活動に取り組むほか、デジタルを活用した台湾人観光客の誘客、中国人富裕層向けのコンテンツ造成・販売、ベトナム旅行会社の招請などにより、旅行需要の喚起や地域消費の拡大につなげる。

○中国デジタルプロモーション

中国国内で人気のメッセージアプリ「Wechat」を活用し、引き続き当市の観光情報発信を行うとともに、これまで実施していたKOL（中国人インフルエンサー）を活用した情報発信と現地旅行博でのPRを組み合わせた観光プロモーションを実施する。現地旅行博でのステージイベントにはKOLが登壇し、函館観光の魅力を語る座談会を実施するほか、「Wechat」のフォロワー獲得のためキャンペーンやPRを行い、情報発信経路の拡大および中国人観光客の来函意欲の向上を目指す。

○魅力的な秋・冬のイベント

秋・冬のイベントとして、はこだてグルメサーカス、MOMI-Gフェスタ、はこだてクリスマスファンタジー、はこだて冬フェスティバル、湯の川冬の灯りを実施しているところであるが、特に冬の誘客効果を向上させるため、函館独自の観光資源や他のコンテンツとの組み合わせ等、イベントのあり方、見せ方を検討し、誘客効果の高いイベントの充実を目指す。

○教育旅行に適したコンテンツの拡充

修学旅行学習を通して、新・学習指導要領に掲げられている「探求学習」・「E S D（持続可能な開発のための教育）」・「キャリア教育」の実現が求められており、これらに対応したコンテンツを拡充することで、新幹線沿線エリアや航空機の直行便就航地エリアの学校を対象とした教育旅行誘致を目指す。

3 函館観光を盛り上げる人を増やす

○SNSを活用した新たな取り組みの実施

市内在住者または函館を訪れた人が、Instagram上で「#ハコラブ」＋「#函館旅行」または「#函館旅部」とタグを付けて投稿することにより、Instagram上で函館旅行を検討している人や、投稿者のつけたタグで投稿を検索した人に「函館の写真」と「投稿者の函館愛」が届き、多くの方に函館の魅力を知ってもらうことができる取り組みで、誰もがいつでも函館の魅力をPRすることができ、かつ情報の拡散力が高く、若年層の使用頻度が高いSNSを活用することで、函館の魅力の周知拡大や観光客の来函意欲の向上を図る。

4 観光を通じて函館が潤う地域づくりを進め、観光への市民理解を促進する

○出前講座・学校教育

函館における観光の位置づけ・重要性について市民理解を深めるため、出前講座や学校教育の機会を活用し、図解やイラストなどを用い分かりやすさを重視した方法で発信を行う。

5 その他、観光振興を図るうえで必要な取り組み

○函館市観光動向調査

本市を訪れる観光客の動向や満足度等を把握するため観光客へのアンケート調査を実施する。

○北前船日本遺産推進協議会（H29.5設立）

平成29年度に日本遺産認定されたストーリー「荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」を活用し、関係機関等の連携のもと、観光振興および地域活性化の推進を図る。

<構成等>

石狩市，小樽市，函館市，松前町，野辺地町，鱒ヶ沢町，深浦町，能代市，男鹿市，秋田市，由利本荘市，にかほ市，酒田市，新潟市，長岡市，佐渡市，上越市，富山市，高岡市，輪島市，小松市，加賀市，坂井市，南越前町，敦賀市，小浜市，宮津市，新温泉町，鳥取市，浜田市，呉市，尾道市，倉敷市，赤穂市，高砂市，洲本市，神戸市，大阪市，鶴岡市，出雲崎町，村上市，金沢市，白山市，志賀町，美浜町，泉佐野市，姫路市，たつの市，竹原市，多度津町，備前市，岡山市

<主な取組>

- ・北前船寄港地に係る情報発信および交流人口拡大
- ・北前船寄港地に係る歴史文化の環境整備

○北海道ドラマティックロード推進協議会（H30.4設立）

北海道新幹線開業を契機として、函館および道南への観光客が増加する中、日本有数の観光資源を有し、特に国内外の観光客の誘客が期待できる札幌市，登別市，函館市の3市が連携し、交通事業者等と協力しながら3市を基軸とした広域周遊ルートの形成およびその認知向上を図り、国内外からの誘客と周遊を促進する。

<構成等>

函館市，札幌市，登別市

<主な取組>

- ・個人旅行者獲得のための取り組み
- ・北海道ドラマティックロードのブランディング

○青森市との共同プロモーション

令和6年6月末で解散した青函観光宣伝協議会の枠組みで青森市と連携し、青函両市を一体の観光圏として売り込み、観光客の誘致を図ることを目的に、両市ともに空路でつながっている中部圏・関西圏を対象に観光プロモーションを実施する。

<構成等>

函館市，青森市

<主な取組>

- ・都市圏での共同プロモーション

○東日本広域周遊ルート関係

平成27年度からさいたま市主催の北海道新幹線沿線自治体の「東日本連携・創生フォーラム」首長連携会議が開催されている。本フォーラムの枠組みを活用し、東日本連携各自治体間の広域連携による物産・食・文化・祭・イベント等の地域資源を相互活用した広域観光周遊ルートの策定および当該周遊ルートの国際的な観光認知度の向上を図る。

<構成等>

さいたま市（事務局），函館市，札幌市，青森市，八戸市，盛岡市，岩手町，仙台市，秋田市，山形市，会津若松市，福島市，郡山市，宇都宮市，小山市，那須塩原市，みなかみ町，新潟市，三条市，魚沼市，南魚沼市，高岡市，氷見市，南砺市，金沢市，長野市，上田市，福井市

<主な取組>

- ・東日本ウェブプロモーション事業

○3D連携関係

函館，大館，角館の3D（館）に加え，秋田犬ツーリズムを構成する北秋田市，小坂町，上小阿仁村が連携し，北海道・東北新幹線，函館空港と仙台空港を結びつけるなど，広域周遊ルートの開発により国内外からの誘客を拡大する。

<構成等>

函館市，大館市，仙北市，北秋田市，小坂町，上小阿仁村

<主な取組>

- ・相互イベント交流

○青函4市連携

令和元年度末に解散した「青函圏観光都市会議」の枠組みで青森市，弘前市，八戸市，函館市の4市が連携し，相互プロモーションなどの取り組みにより，交流人口の拡大を図る。

<構成等>

青森市，弘前市，八戸市，函館市

<主な取組>

- ・相互イベント交流

○ひろはこ連携推進実行委員会（R4.4設立）

古くから人・物の交流によるつながりがあり，広域観光などにおいて関わりが深い弘前市と連携し，両市の相互誘客や周遊観光の促進などを図る取り組みを実施する。

<構成等>

弘前観光コンベンション協会，函館国際観光コンベンション協会，弘前市，函館市

<主な取組>

冬には「初音ミク」の派生キャラクターである北海道応援キャラクターの「雪ミク」と，春には同じく派生キャラクターで弘前さくらまつり公式応援キャラクターの「桜ミク」と連携した取り組みを両市で展開する。

○函館国際観光コンベンション協会

本市の観光振興および地域経済活性化を図ることを目的として補助金を交付している。

○イベント一覧

【主なまつり・イベントの開催一覧】

名 称	主 催 者 名	開 催 時 期	行 事 内 容
箱館五稜郭祭	箱館五稜郭祭協賛会	5月中旬	碑前祭（5月第3土曜日）， 維新行列，開城セレモニー
恵山つつじまつり	恵山つつじまつり 実行委員会	5月中旬～6月上旬	ソーラン踊り，吹奏楽演奏ほか
南かやべひろめ舟祭り	南かやべひろめ舟祭り 実行委員会	6月中旬	舟こぎ競争，郷土芸能ほか
函館港花火大会	函館新聞社	7月中旬	海の日を記念した花火大会
市民創作函館野外劇	市民創作「函館野外劇」の会	7月上旬～8月上旬	野外劇「星の城，明日に輝け」
函館港まつり	函館港まつり実行委員会	8月1日～5日	ワッショイはこだて，歩行者天国， 道新花火大会ほか
湯の川温泉花火大会	湯の川温泉花火大会 実行委員会	8月中旬	花火大会
はこだてグルメサーカス	はこだてグルメサーカス 実行委員会	9月上旬	飲食ブースの出店，ステージイベント
はこだてMOMI-Gフェスタ	函館市	10月中旬～11月上旬	紅葉のライトアップほか
はこだてクリスマス ファンタジー	はこだてクリスマス ファンタジー実行委員会	12月	巨大もみの木のクリスマスツリーの 設置，花火の打ち上げほか
五稜星（ほし）の夢	五稜星の夢実行委員会	12月初旬～2月下旬	特別史跡五稜郭跡の外堀の イルミネーションほか
はこだて冬フェスティバル	はこだて冬フェスティバル 実行委員会	12月初旬～2月下旬	二十間坂通，開港通りなどのイルミ ネーション，ライトアップほか
湯の川冬の灯り	湯の川冬の灯り実行委員会	12月初旬～2月下旬	イルミネーション，ライトアップ， 湯の川まちあるきイベントほか
函館港イルミナシオン映画祭	函館港イルミナシオン 映画祭実行委員会	12月上旬	映画の上映，トークショー， シナリオ大賞受賞式ほか
はこだてFOODフェスタ	はこだてFOODフェスタ 実行委員会	2月下旬	「食」をテーマとした各種イベント

注）各支所管内のまつり・イベントを含む。

8 函館市の観光統計

1 来函観光入込客数

(1) 道外・道内別、宿泊・日帰り別観光入込客数

区 分	総 数 (千人)	道外		道内		宿泊		日帰り	
		観光入込 客数 (千人)	構成比 (%)	観光入込 客数 (千人)	構成比 (%)	観光入込 客数 (千人)	構成比 (%)	観光入込 客数 (千人)	構成比 (%)
令和3年度	3,462	1,606	46.4	1,856	53.6	1,652	47.7	1,810	52.3
令和4年度	4,547	2,584	56.8	1,964	43.2	2,697	59.3	1,851	40.7
令和5年度	5,286	3,194	60.4	2,092	39.6	3,128	59.2	2,158	40.8

(2) 交通機関別観光入込客数

区 分	総 数 (千人)	観光入込客数 () 内は構成比%			
		鉄 道 (千人)	乗用車等 (千人)	船舶 (千人)	航空機 (千人)
令和3年度	3,462	2,265 (65.4)	580 (16.8)	388 (11.2)	230 (6.6)
令和4年度	4,547	2,682 (59.0)	898 (19.7)	657 (14.5)	310 (6.8)
令和5年度	5,286	2,781 (52.6)	1,258 (23.8)	797 (15.1)	449 (8.5)

(3) 訪日外国人宿泊客数

(単位：人)

	中国	韓国	台湾	香港	シンガ ポール	マレー シア	タイ	インド ネシア	アメリカ	その他	計
R3年度	284	73	48	1	12	12	4	15	244	424	1,117
R4年度	4,789	9,135	28,046	7,906	9,000	3,983	10,094	2,062	4,997	10,363	90,375
R5年度	40,977	23,927	177,156	27,997	25,850	9,267	20,718	4,637	14,867	28,411	373,807

2 主な観光施設利用者数

区 分	函館山ロープウェイ (人)	旧函館区公会堂 (人)	五稜郭タワー (人)
令和3年度	398,991	84,855	280,724
令和4年度	1,002,626	157,587	714,920
令和5年度	1,537,305	182,970	940,354

※ 旧函館区公会堂は、平成30年10月から令和3年4月25日まで保存修理工事のため休館

9 観光施設（市所管）の概要と利用状況

函館市旧イギリス領事館（開港記念館）および観光客や市民の利便に供するため、元町地区および五稜郭地区に観光駐車場等を設置している。

1 函館市旧イギリス領事館（開港記念館）の概要

(1) 設置の趣旨

歴史的建造物を保存し、および活用して、箱館開港の歴史を広く市民および観光客に伝えるとともに、その利用に供し、もって本市の文化の向上と観光の振興に資する。

(2) 施設の概要

所在地	函館市元町 33 番 14 号
構造	レンガ造 2 階建て瓦葺き
規模	展示室 (5), 資料室, 開港記念ホール, 研修室 (2), ティールーム, ショップ, 洋式庭園, その他
開館時間	午前 9 時～午後 7 時 (4 月 1 日～10 月 31 日) 午前 9 時～午後 5 時 (11 月 1 日～3 月 31 日)
休館日	12 月 31 日・1 月 1 日
建物面積	延べ床面積 965.35 m ²
敷地面積	3,762.32 m ²
駐車場	なし
開設年月日	平成 4 年 8 月 1 日
管理運営	指定管理者 (函館市旧イギリス領事館 (開港記念館) 施設活用プロジェクトチーム)

(3) 利用者数

年 度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
利用者数	41,912 人	79,581 人	88,504 人

2 函館市元町観光駐車場の概要

(1) 設置の趣旨

マイカーやレンタカーを利用する観光客が増加している状況のなかで、元町公園周辺地区の交通混雑、路上駐車等による交通渋滞を解消し、観光客や市民の利便に供する。

なお、観光客等の利用状況を勘案し、付近住民や企業からの要望も踏まえ、平成 20 年 4 月より立体駐車場の一部を月ぎめ駐車場として供用している。

(2) 施設の概要

・広場式

所在地 函館市元町 33 番
規模 収容台数 乗用車 41 台
供用時間 午前 0 時～午後 12 時
供用期間 1 月 1 日～12 月 31 日
敷地面積 1,294.55 m²
開設年月日 平成 13 年 4 月 21 日
管理運営 指定管理者 ((株)マルゼンシステムズ)

・立体式

所在地 函館市末広町 20 番 13 号
構造 鉄骨造陸屋根 3 階建て
規模 1 階 収容台数 乗用車 52 台 (月ぎめ)
2 階 収容台数 乗用車 43 台 (月ぎめ)
3 階 収容台数 乗用車 52 台
供用時間 1・2 階 午前 0 時～午後 12 時
(月ぎめ) ただし、開場時間は午前 6 時～午後 10 時
3 階 午前 9 時～午後 7 時 30 分 (4 月 1 日～10 月 31 日)
3 階 午前 9 時～午後 5 時 30 分 (11 月 1 日～3 月 31 日)
供用期間 1・2 階 (月ぎめ) 1 月 1 日～12 月 31 日
3 階 1 月 4 日～12 月 30 日
建物面積 延べ床面積 3,510.60 m²
敷地面積 1,664.57 m²
開設年月日 平成 13 年 4 月 21 日 (1・2 階の月ぎめ駐車場化は平成 20 年 4 月 1 日)
管理運営 指定管理者 ((株)マルゼンシステムズ)

(3) 利用台数

年 度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
利用台数	22,865 台	35,317 台	37,224 台

※ 利用台数については、月ぎめ駐車場利用分は、含まれていない。

3 函館市五稜郭観光駐車場の概要

(1) 設置の趣旨

マイカーやレンタカーを利用する観光客が増加している状況のなかで、特別史跡五稜郭跡周辺地域の交通混雑、路上駐車等による交通渋滞を解消し、観光客や市民の利便に供する。

(2) 施設の概要

所在地	函館市五稜郭町 27 番
規模	収容台数 乗用車 97 台（車椅子専用 2 台含む）
供用時間	午前 0 時～午後 12 時
供用期間	1 月 1 日～12 月 31 日
敷地面積	3,317.97 m ²
開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日
管理運営	指定管理者（セントラル警備(株)）

(3) 利用台数

年 度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
利用台数	34,452 台	52,089 台	57,839 台

4 函館市函館山山麓観光駐車場の概要

(1) 設置の趣旨

マイカーやレンタカーを利用する観光客が増加している状況のなかで、函館山ロープウェイ山麓駅周辺地域の交通混雑、路上駐車等による交通渋滞を解消し、観光客や市民の利便に供する。

(2) 施設の概要

所在地	函館市元町 18 番
規模	収容台数 乗用車 47 台（車椅子専用 1 台含む）
供用時間	午前 0 時～午後 12 時
供用期間	1 月 1 日～12 月 31 日
敷地面積	574.2 m ²
開設年月日	令和 2 年 4 月 1 日
管理運営	指定管理者（(株)マルゼンシステムズ）

(3) 利用台数

年 度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
利用台数	22,445 台	37,312 台	41,964 台

5 観光案内標識・観光照明灯等

市内に点在する観光資源を紹介するため、案内板や名所説明板等を計画的に配置し、観光客の利便性を高めるとともに、散策コースおよび各観光地にガス灯風の観光街路灯等を設置するなど、観光環境の整備に努めている。

令和元年度に説明板の一部（73基）について国の補助事業を活用し、QRコードによる多言語対応を実施した。

(1) 観光案内標識の整備状況（R6.4現在）

種類	設置数	多言語表記			
		5言語表記	2言語表記	3言語表記	4言語表記
案内板	50基	37基	13基		
名所説明板	83基	2基		4基	
		77基			
坂説明柱	43基	43基			
誘導指標	45基				
歓迎塔	2基				
計	293基				

(2) 観光照明灯の整備状況（R6.4現在）

種類	設置数
観光街路灯	800基（西部地区627基，湯川地区173基）
ガス灯	0基
観光照明塔	5基
計	805基

(3) ライトアップ施設の整備状況（R6.4現在）

投光器設置施設 27箇所

(4) 観光客誘導ラインの整備（R6.4現在）

歩道上に誘導先を表示した石板またはシールを貼り、観光施設への円滑な誘導を図っている。

誘導ライン施工延長 7路線延べ8,630m

(5) 観光車両案内標識の整備

市内の主要道路や観光施設の周辺部に、観光車両の円滑な誘導を図るため、車両対応型の案内標識を整備している。

（H8年度事業 70基 H10年度事業 20基 H16年度事業 2基）

(6) まちあるき休憩ベンチの整備 (H25～)

散策の途中で気軽に休憩できるスペースとして、西部地区の歩道にベンチを設置している。
まちあるき休憩ベンチ設置数 9基 (R6.4 現在)

6 観光案内所

函館駅内(「V」案内所：昭和62年指定。平成30年には、JNTOによる外国人観光案内所(カテゴリー2)に認定)に設置している。

函館市観光案内所来所人員

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
駅内	37,068人	80,955人	90,763人
前年対比	108.4%	218.4%	112.1%

7 まちかど観光案内所

観光客の利便性を高めるとともに、観光客と地域住民との交流を通じた市民と行政との協働による観光地づくりを目的に、市内の観光関連事業者等が「まちかど観光案内所」の開設者となり、観光客に対し道案内や観光情報を提供している。

開設 平成16年3月23日
開設者数 21施設 (R6.7 現在)



国際観光都市宣言

函館は、美しい自然、豊かな温泉、そして異国情緒あふれるまち並みや歴史的文化遺産などの観光資源に恵まれた、魅力ある都市です。

世界の国々から訪れる方々を、私たち函館市民が温かい真心で迎え、感動とやすらぎのなかで、再び函館を訪れたいくなるような、人情味あふれる観光地づくりをすることが、観光都市函館のねがいです。

歴史と文化のかおり高い美しい街函館の、より一層の飛躍を目指し、全市民の総意と熱意をもって、ここに「国際観光都市・函館」を宣言します。

平成元年 8 月 1 日

函 館 市